

尿道カテーテル留置について

1 尿道カテーテルとは

尿道カテーテルとは、尿道から膀胱に挿入するカテーテル（チューブ）のことです。

2 なぜ必要なのか

1. 自分では排尿することができないとき
2. 尿量を正確に測定する必要があるとき

3 方法

尿道カテーテル留置とは、尿を持続的に排出させたい場合にチューブ先端のバルーンという小さな風船を膀胱内で膨らませ、カテーテルが自然に抜けないように固定し挿入したままの状態にします。

4 合併症について

尿道カテーテル留置は比較的安全性の高い処置となりますが、以下のような合併症（併発症）を起こす可能性があり、まれに合併症に対する治療を行うことがあります。これらの合併症が生じた場合は最善の処置を行います。その際の医療行為は通常の保険診療となり、費用のご負担が生じます。

1. 感染症 カテーテルを挿入した部位から細菌が入り、感染を引き起こすことがあります。
2. 尿道損傷 尿道内にカテーテルを挿入する際、出血や炎症が起こることがあります。
3. 膀胱刺激症状 カテーテルの刺激によって下腹部の張りや痛み、排尿したい感覚が続いてしまうなどの症状があります。

また、尿漏れ、膀胱結石、カテーテルが当たっている部位やテープ固定部に皮膚障害などを発生することがあります。

5 特別な注意が必要な場合

- 消毒薬（アルコールなど）やゴム手袋にアレルギーをお持ちの方
- その他、手技に関してご希望、ご不安な点のある方